

Subject : **Japanese**

Production of Courseware
e- Content for Post Graduate Courses



Paper No. **02** : 日本語学 (Japanese Linguistics)

Module **25** : 指示詞 (Demonstratives)

Development Team

Principal Investigator: **Prof. Anita Khanna**
Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator: **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer: **Prof. Shingo Imai**
University of Tsukuba


Content Reviewer: **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Japanese

Japanese Linguistics

指示詞 (Demonstratives)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	指示詞 (Demonstratives)
Module ID	JPN-P02-M25
Quadrant 3	Learn More

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

指示詞 (Demonstratives)

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版.

金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6 (4), pp.67-91.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jnlp1994/6/4/6_4_67/_pdf.

金水敏・田窪行則 (1992) 「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『日本語研究資料集 指示詞』pp.123-149, ひつじ書房.

久野暲 (1973) 「コ・ソ・ア」『日本文法研究』pp.185-190, 大修館書店, 金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集 指示詞』pp.69-73, ひつじ書房 (再録).

黒田成幸 (1979) 「(コ)・ソ・アについて」『林栄一教授還暦記念論文集 英語と日本語と』pp.41-60, くろしお出版, 金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集 指示詞』pp.91-104, ひつじ書房 (再録).

白川博之 (監修)・庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (著) (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

正保勇 (1981) 「「コソア」の体系」『国立国語研究所 (編) 日本語教育指導参考書 8 日本語の指示詞』pp.52-122, 大蔵省印刷局.

Interesting Facts

くろだ 黒田 (1979) は (2) のような例を証拠として、記憶指示の場合に話し手と聞き手が情報
きょうゆう を共有するという条件は不要とした。

(1) 先週神田で火事がありました。 {その／?あの} 火事で学生が二人死にました。

くろだ (黒田 (1979) から改変)

(?のマークはその文が不自然であることを示す。)

(2) 今日神田で火事があったよ。 {?あの／*その} 火事のことだから、人が何人も死ん
おも だと思うよ。(黒田 (1979) から改変)

くろだ 黒田 (1979) はア系は、直接的体験的知識、ソ系は概念的な知識を指すものとして区別

した。これによると (2) の例のように、話し手だけが知っていて、聞き手が知らないこ

とでもア系で表される場合があることを説明できるとした。(「あの」もやや不自然

ではあるが、「その」が使えないことが、話し手と聞き手が情報を共有していない

場合にソ系が使われるという久野 (1978) の主張への反例とされた。) 黒田 (1979) によ

ると (1) のようにソ系を使うのは、単に先行詞を概念 (指示対象) として、それにつ

い ばあい けい つか ちよくせつたいけん きおく よ お
 いて言う場合であり、(2) のようにア系を使うのは、直接体験の記憶を呼び起こして、

ちしき すいろん ばあい すいろん ちよくせつたいけん
 その知識をもとに推論している場合である。(2) のように推論をするには、直接体験の

ちしき ひつよう たん がいねん さ けい つか う
 知識を必要とするので、単に概念だけを指すソ系は使えないとしている。これを受けて、

きんすい たくぼ いちれん けんきゆう だんわかんりろん かんが かつ し じ し つか かつ
 金水・田窪は一連の研究で、「談話管理理論」という考え方によって指示詞の使い方

けい けい はな て ちよくせつてき けいけん たいしょう さ しめ けい
 について、コ系、ア系は話し手の直接的な経験による対象を指し示し、ソ系は

ちよくせつてき けいけん かんせつてき じょうほう とく げんごてきぶんみやく どうにゆう じょうほう
 直接的な経験によらない、間接的な情報（特に、言語的文脈で導入された情報）

たいしょう さ しめ せつめい はな て ちよくせつけいけん
 による対象を指し示すものと説明している。これによると、(2) は話し手が直接経験

じょうほう もと すいろん ほう つか
 した情報に基づいて推論するために、「その」ではなく「あの」の方が使いやすいが、

たん げんごてきぶんみやく あらわ せんこう し か じ さ はな て
 (1) は単に言語的文脈に現れた先行詞である「火事」を指しているだけで、話し手の

ちよくせつたいけん かんけい けい つか
 直接体験には関係ないため、ソ系を使うとされる。
